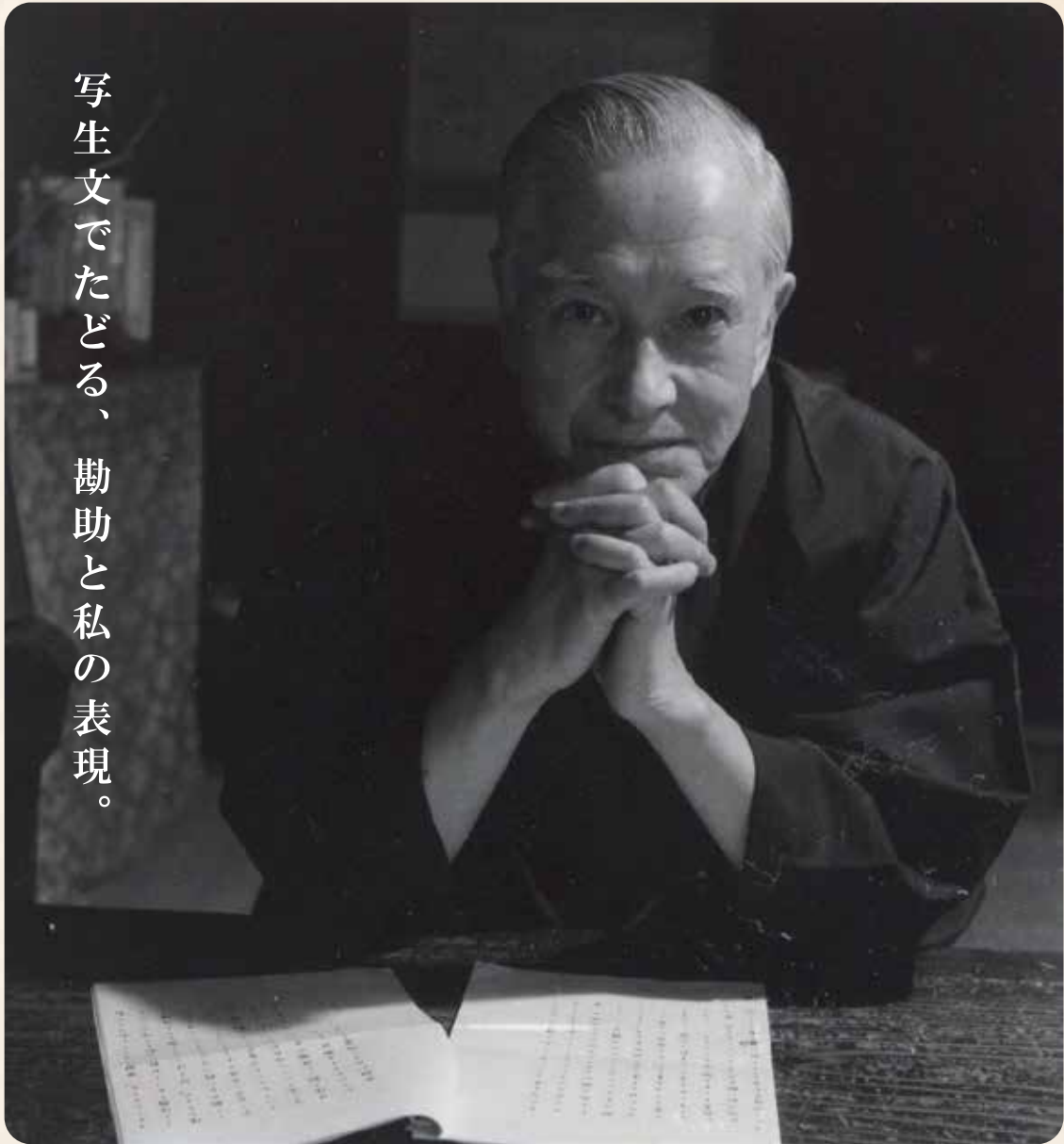


写生文でたどる、
勘助と私の表現。



日曜文芸サロン

～茅茸と中勘助とわたし～

平成29年6月11日、25日、7月9日、23日

(全4回/いずれも日曜日)

午前10時～正午 参加無料

申込：平成29年5月14日（日）午前10時～
電話で静岡市薬科生涯学習センターへ（054-278-4141・先着順）

講師：中村ともえ氏（静岡大学教育学部国語教育講座准教授）

対象：中学生以上20人

会場：中勘助文学記念館（静岡市葵区新聞1089-120）

主催：静岡市 共催：静岡市薬科生涯学習センター

企画・制作・お問合せ：公益財団法人静岡市文化振興財団 tel.054-255-4746



中勘助（なかかんすけ／1885-1965）は、文豪・夏目漱石（1867-1916）の推薦で『東京朝日新聞』に連載した自伝的小説『銀の匙』で知られる、近代日本を代表する文学者のひとりです。

今回は、中勘助文学記念館を会場に、静岡大学の中村ともえ氏を講師に迎える全4回の連続講座を開催します。『銀の匙』の閲読や、中勘助文学作品に用いられた「写生文」の方法を体験し、実践する作文ワークショップ、さらに、夏目漱石の写生文の紹介などを通じ、中勘助の文学に迫ります。



講師紹介 中村ともえ氏



静岡大学教育学部国語教育講座准教授。東京大学大学院人文科学研究科修了。博士（文学）。

専門は日本近現代文学。谷崎潤一郎を中心に近代小説を研究。小説が美術や演劇などの他の芸術ジャンルと結ぶ関係に関心を持つ。

講座内容



回数・日時	講座テーマ	講座内容
第1回（6/11）	『銀の匙』を読む	講師による中勘助の生涯や文学史的位置付けの解説の後、『銀の匙』の一節を読みます。
第2回（6/25）	正岡子規を読み、場を書く	写生文の創始者である正岡子規の「叙事文」を読み、中勘助文学記念館周辺の景色を写生することに挑戦します。
第3回（7/9）	自らの幼少期を書く	『銀の匙』を参考に、自らの幼少期を写生文として書き起こします。（文章は講師が添削、第4回に返却します。）
第4回（7/23）	夏目漱石『永日小品』を読む	中勘助の師である夏目漱石の『永日小品』を読み、「漱石の写生文」を楽しみます。

※受講時は筆記用具をご持参ください。

※上記内容は予定であり、都合により変更の可能性がございます。予めご了承ください。

中勘助文学記念館について



1943（昭和18）年、中勘助が転地静養と疎開のために居住した「杓子庵」を、中勘助生誕110年・没後30年にあたる1995（平成7）年、静岡市が整備復元し開館。氏の活動の顕彰の場、文化交流の場として、広く親しまれています。

開館時間：午前10時～午後5時

休館日：月曜日（祝日の場合を除く）、祝日の翌日（土日を除く）、年末年始（12/26～1/5）

入館料：無料

住所：静岡市葵区新聞1089-120

電話番号：054-277-2970

◆交通アクセス

バス しずてつジャストライン藁科線

「新静岡」2番のりば、または「静岡駅前」3番のりば乗車、「見性寺」下車徒歩2分

車 新東名静岡SAスマートインターから約10分

東名静岡インターから国道362号線（藁科街道）千頭方面へ約25分 駐車場あり（4台分）

